

## タイトル 父が私をいつも応援してくれる

今の私があるのは、紛れもない父を母のお陰です。

そう心から思えるようになったのは、父が亡くなる2か月前の出来事から。

私が3歳の時に父と母は離婚をし、私は父に育てられました。

父は躰に厳しく「あれもダメ、これもダメ、お前はそこが悪い」制限と否定の中で育ったとした思い出せないくらい

褒められた事はありませんでした。

そんな環境が苦しくて18歳で家をでました、そこから専門学校を出て社会人になり一日も早く自立したかった

父に認めてもらいたかった。

だけど、いくら頑張っても父は私を認めてくれなかったし、応援の言葉もなかった。

だから、父との溝はずっと埋まりませんでした。

時間だけがただただ過ぎて10年経った、ある日父が倒れと連絡がきました。

そこから2か月間、看病と父と再度、向き合う時間が私に与えられました。

倒れたものの口は元気な父は、私をまた否定する毎日、病院で感情的になり、何度も泣きました。

あの苦しかった日々が、また訪れたのです。

10年の月日で私は自分が成長できたと思っていたが、あの頃と何も変わらず、父に泣きながら言い返してしまいました。

こんなはずじゃなかった、男手一つで育てて頂いた父にちゃんと感謝を伝えられる大人になったはずなのに

全く父の目すら見れない自分に驚きました。

それでも、毎日行っただけ行きました、このまま終わらせたくなかったから。

『今日こそは、父に感謝を伝えよう』と頭で考えながら病院へ向かいました。

でも、今日もダメだったと、帰る日々。

そんなある日、いつもの様に病院へ行くと、父が自分の死期を悟ったのでしょうか、今までみたことのない物凄い優しい眼差しで

私を迎え入れ「まどか、ここへ座ってくれ」と言うのです。

父の目が見れない私は、下を向きながら父の言う通り椅子に腰かけました。

「お前が生まれた時、本当に天使が生まれたと思ったんだ」と父が私が生まれた時の話を初めてしてくれました。

本当に驚きました、なぜなら私はその日まで、「父は私の事を愛していない」と思っていたから

父は私の事をちゃんと愛してくれていたと、その時に知れたのでした。

それから数日後、父は亡くなりました。

「意識がなくなってますので、すぐに来て下さい」と連絡がきてから1時間かかってしまっ

た私をちゃんと待っていてくれて

最後の最後に父の手を握り「お父さん、ありがとう」って言った瞬間に息を引き取りました。

父は私が自分の口から言えるのをちゃんと最後待っていてくれました。

私は、現在、夢だった出版を叶えて絵本作家になりました。

私から生まれた「たんぽぽのうた」は、児童養護施設の寄付ボランティア活動に参加した事がきっかけで生まれました。

児童養護施設では18歳までの子供達を大切に育てておられます。

ですが、18歳を過ぎると子供たちは社会へでなくてはいけなくて、でもそれは早すぎて多くの子が会社をやめてしまうそうです。でも彼らには帰る家がないのです。

そこで、多くの子が犯罪に巻き込まれて命を落としてしまうそうなんです。

その話を知った時、私に何が出来るだろう？何をすべきだろう？と考えました。

その時、彼らに愛を伝えたいと思いました。

私は父にずっと愛されていないと思って生きてきました、その時に私はいつも心が弱くて、そして

自分なんていない存在だと思っていました。自分の生い立ちも自分自身も大っ嫌いなんです。

ですが、父は私の事をちゃんと愛してくれていたと知れた時から、自分が大好きになれました。

そう思えた瞬間から、私の人生は180度変わりました。

私は、心のカウンセラーとして活動をしていて12年間で4000人以上の方のご相談を聞いてきました。

沢山の心の問題を修復してきました。だから、分かります。

この世に存在する以上、愛されていない人はいないんです。事情があり、子供を手放す選択をされたとしても

愛がなかったら、生まないんです。だから、愛されていなかったら、今、存在できていないんです。

一瞬だったとしても、自分が愛されて存在しているという事に気づけたら人は自分を好きになれて

強く優しく生きられるのです。

その事を私は父から教わりました。だから、それを私は愛されていないと思っている人達へ伝えていきたいです。私には父がいつも応援してくれているように、あなたにも最大の応援者がいると伝えたいです。